



千葉大学キャンパスマスタープラン 2012 資料編①
「現状と課題」

Nishi Chiba Campus
西千葉キャンパス

千葉大学キャンパスマスタープラン 2012

資料編① 西千葉キャンパス「現状と課題」

目次

キャンパス概要

西千葉キャンパス	49
----------	----

1 土地利用と建物配置

1-1 周辺地域・土地利用	50
1-2 機能別ゾーン	51
1-3 建物デザイン・高さ	52
1-4 建物老朽	53
1-5 講義室	54

2 インフラ計画

2-1 交通動線	55
2-2 駐輪場	56
2-3 駐車場	57
2-4 基幹設備	58
2-5 エネルギー消費量・CO ₂ 排出量	59

3 パブリックスペース

3-1 学生スペース・交流スペース	60
3-2 広場・オープンスペース	61
3-3 樹木・緑地	62
3-4 シンボル・歴史資源	63
3-5 サイン・情報揭示	64

4 安全・安心

4-1 耐震改修	65
4-2 犯罪・事故	66
4-3 外灯	67
4-4 バリアフリー	68
4-5 避難場所	69
4-6 喫煙場所	70
4-7 廃棄物	71
4-8 都市型豪雨	72

5 その他

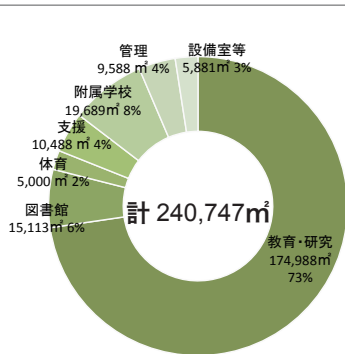
5-1 全学共同利用スペース	73
5-2 宿舎	74

西千葉キャンパス概要

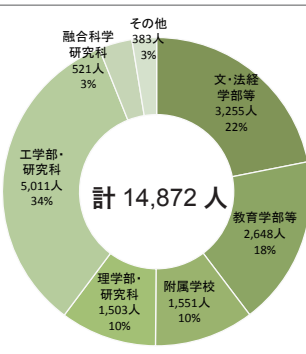


所在地 千葉市稲毛区弥生町1-33
 設置年度 昭和37年
 敷地面積 396,334㎡
 建築面積 75,246㎡
 延床面積 240,747㎡
 棟数 171棟

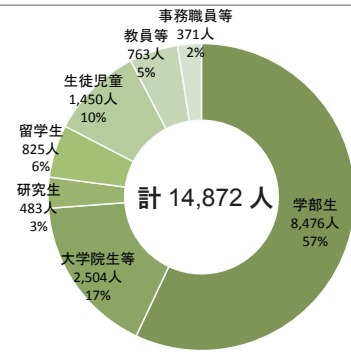
学部 文学部・法経学部・教育学部・理学部・工学部
 大学院 教育学研究科・専門法務研究科・人文社会科学研究科・理学研究科・工学研究科・融合科学研究科
 センター等 環境リモートセンシング研究センター・国際教育センター・フロンティアメディカル工学研究開発センター・ベンチャービジネスラボラトリー・総合メディア基盤センター・言語教育センター・分析センター・先進科学センター・普遍教育センター・海洋バイオシステム研究センター・アイソトープ実験施設・アカデミックリンクセンター・地域観光創造センター・附属幼稚園・附属小学校・附属中学校 他



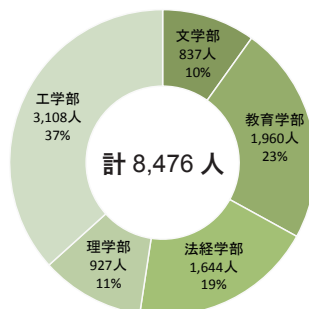
区分別面積分布



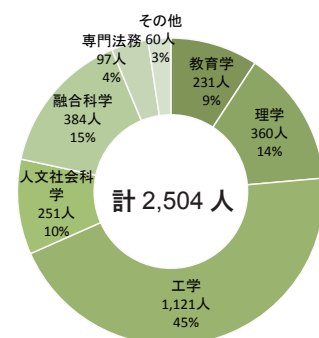
所属別構成員比 (学生・教職員)
 (留学生を含む)



分類別構成員比 (学生・教職員)
 (留学生を含む)



構成員比 (学部生)
 (留学生を除く)



構成員比 (大学院・研究生等)
 (留学生を除く)

「平成 23 年度施設実態報告」
 「千葉大学概要 2011」より

1-1 周辺地域・土地利用



キャンパス周辺マップ

■現状・課題

JR西千葉駅直近に南門があり、最も利用人数の多い門となっている。キャンパスに隣接する東大生産技術研究所が移転予定である。

- ・ 西千葉駅前広場から南門への歩道が狭く、朝の通学時に人があふれる。
- ・ 東大生産研の跡地（予定）がキャンパスの発展に影響を及ぼす可能性がある。
- ・ 市道拡幅は概ね終了しているが、西側の歩道の幅員が狭く、通行しづらい。
- ・ 弥生小学校の利用計画が市の政策課題となっている。
- ・ 学園通り（正門～みどり台駅）の街路整備が市の政策課題。

■検討の方向

- ・ ゾーニング計画に反映。
- ・ 隣接地を含めた将来計画。
- ・ 西千葉駅から南門の一体的な整備。



①キャンパス西側歩道整備



②学園通り

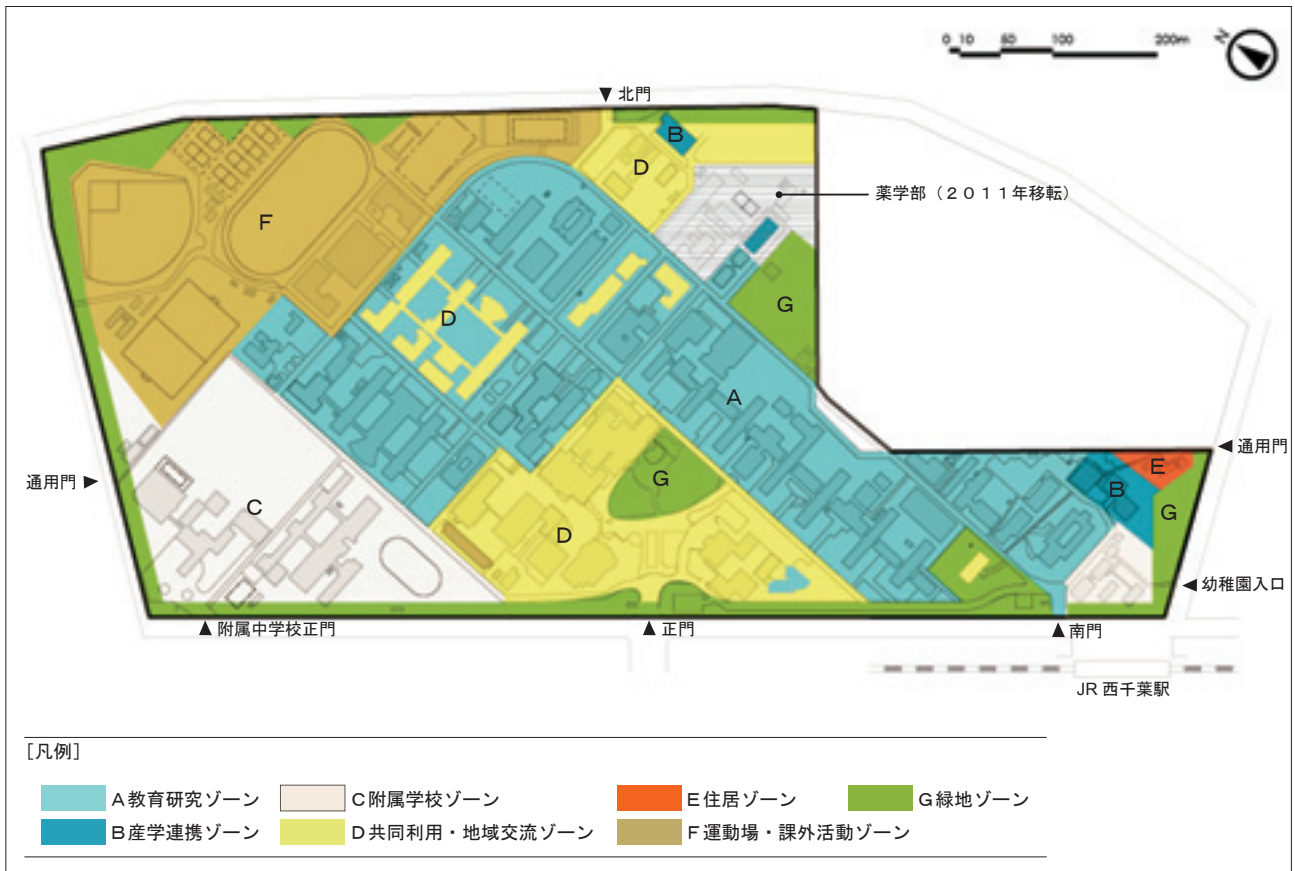


③弥生小学校



④南門周辺

1-2 機能別ゾーン



ゾーンマップ

■現状・課題

- 西千葉キャンパスは、教育研究、産学連携、附属学校、共同利用・地域交流、住居、運動場、緑地の機能別ゾーンが混在している。
- ・ 産学連携・知的財産機構、ベンチャービジネスラボラトリー、サイエンスパークセンターなどの産官学連携施設があるが各施設が隔離している。
 - ・ 全学共同利用スペースである総合校舎が教育研究ゾーンの深部にある。
 - ・ 教育学部と附属幼稚園の隔たり。
 - ・ 薬学移転後の再整備に合わせ、ゾーンの位置づけが必要。
 - ・ 正門から南門にかけて、ゾーンの位置づけが明確になっていない。
 - ・ ゾーン間の連携が適切でない。

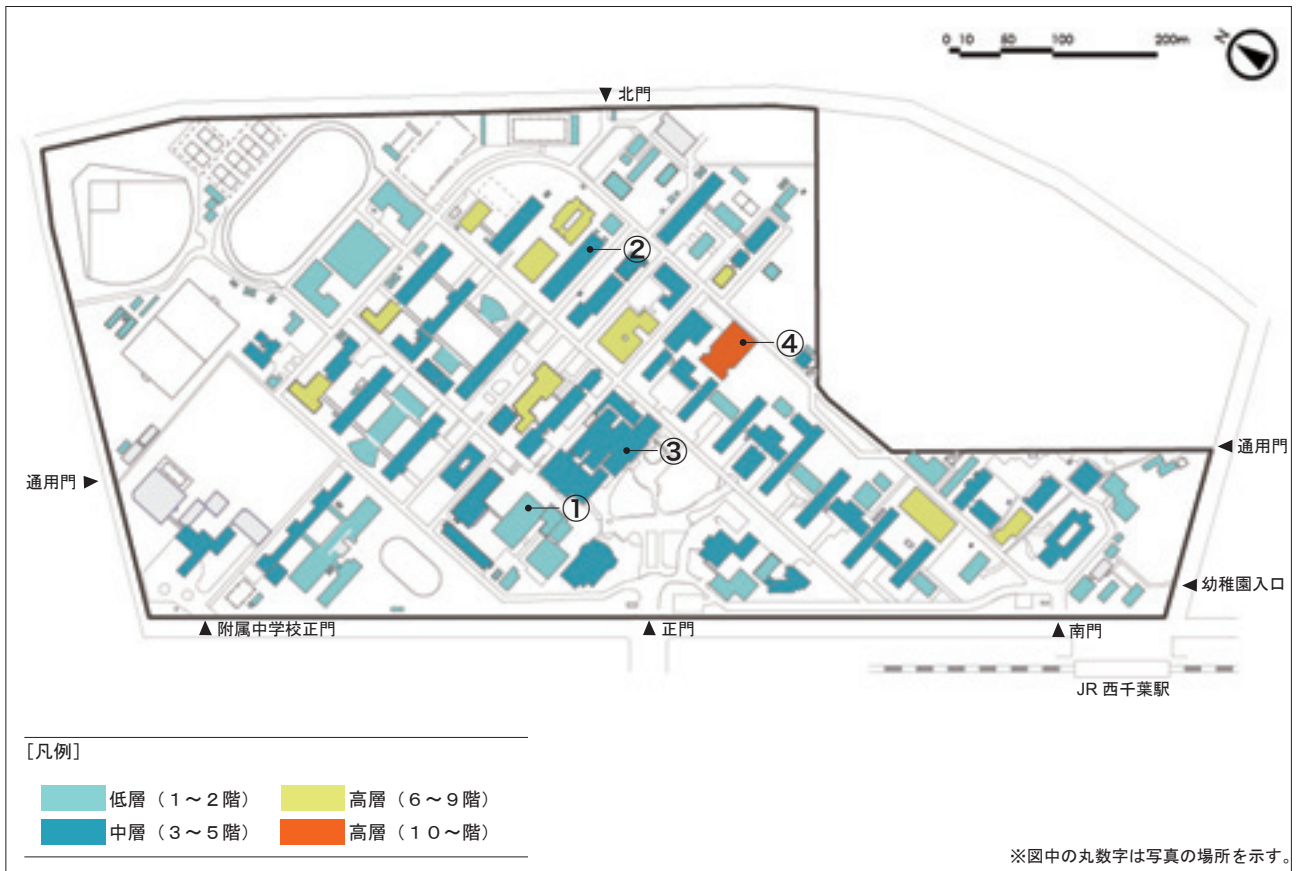
■検討の方向

- ・ 正門から南門を交流ゾーンの核とし、共同利用、教育研究ゾーンがその周辺を取りまくゾーニング計画とする。
- ・ JR西千葉駅～南門の一体整備。
- ・ 薬学部跡地のゾーンの位置づけ。

(表) 機能別ゾーン一覧

教育研究ゾーン	文学部	産学連携・知的財産機構
	法経学部	産学連携ゾーン ベンチャービジネスラボラトリー
	社会文化科学研究科	サイエンスパークセンター
	人文社会科学研究科	附属幼稚園
	専門法務研究科	附属小学校
	理学部	附属中学校
	理学研究科	事務局
	工学部	附属図書館本館
	工学研究科	アカデミックリンク
	融合科学研究科	共同利用ゾーン 総合安全衛生管理機構
教育研究ゾーン	薬学部	国際教育センター
	薬用資源教育研究センター	言語教育センター
	教員養成を主とした教育学部	普遍教育センター
	連合学校教育学研究科	共通教育
	教育学研究科	分析センター
	教育実践総合センター	アイソトープ実験施設
	環境リモートセンシング研究センター	総合メディア基盤センター
	先進科学センター	住居ゾーン ゲストハウス
	自然科学研究科	運動場ゾーン 課外活動施設（野球場・サッカーコート・陸上競技場・テニスコート・多目的コート・体育館・武道場 他）
	総合教育研究施設	緑地ゾーン かたらいの森 薬草園
フロンティアメディカル工学研究開発センター		

1-3 建物デザイン・高さ



建物高さ分布図

平成 23 年度施設実態報告より
平成 23 年 5 月

■現状・課題

- ・ キャンパス内の建物のほとんどが 4～5 階の中層であるが、7～8 階の建物が 11 棟、9 階以上の建物が 1 棟ある。
- ・ 建物の色、デザインの調和がとれていない。

■検討の方向

- ・ キャンパス全体の建物配置計画と合わせて、壁面線、建物高さ、スカイライン、外装色、材料等に関するガイドラインの検討。
- ・ 高層棟への立て替えによる建て詰まりの解消、空地確保。



①厚生施設（低層）



②理学部棟（中層）

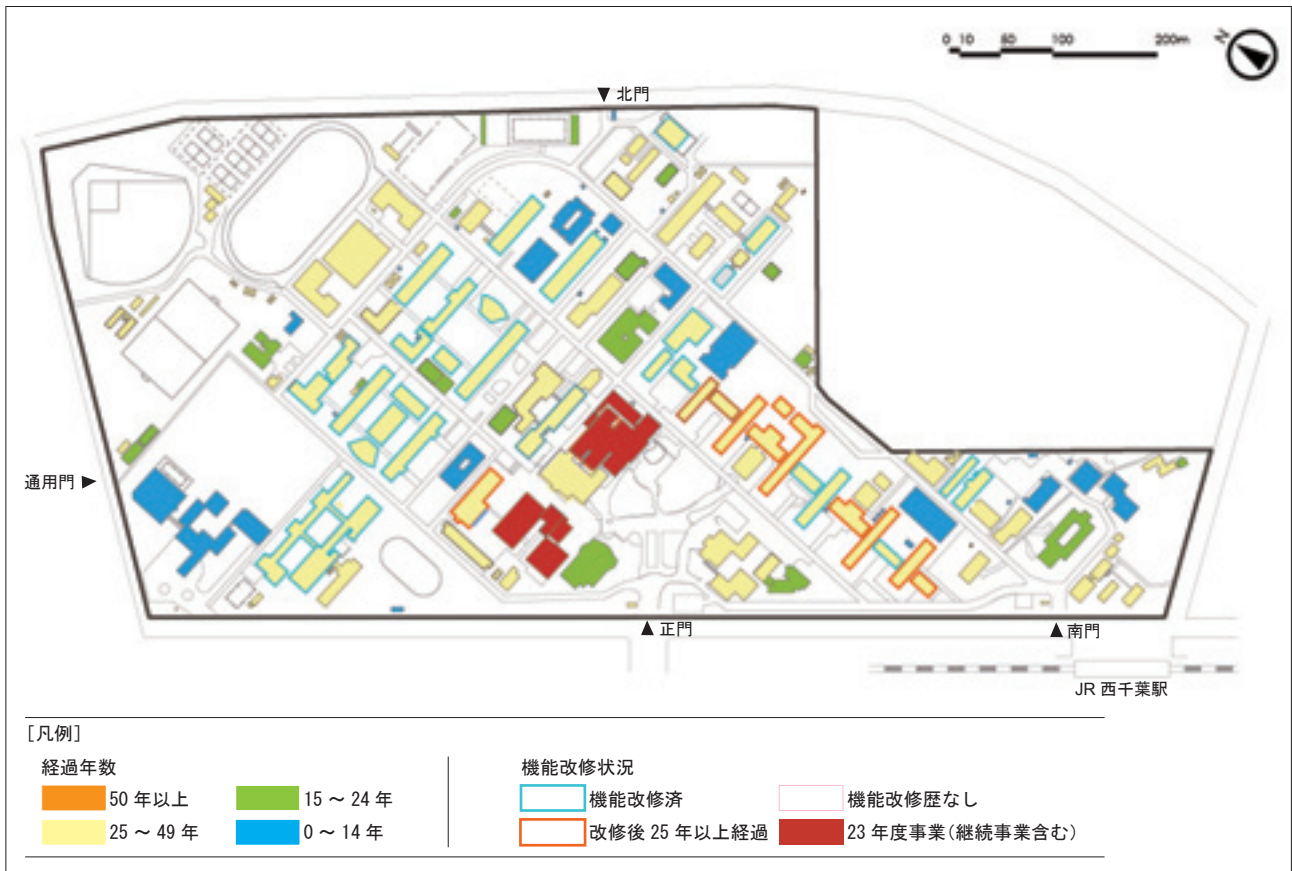


③附属図書館（中層）



④自然科学系総合研究棟（高層）

1-4 建物老朽



建物計年別・機能改修状況別配置図

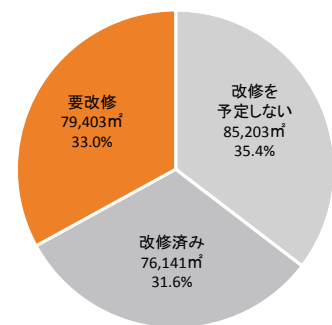
平成 23 年度施設実態報告より
平成 23 年 5 月

■現状・課題

- 西千葉キャンパスにある建物 240,747 m²のうち、1986 年以前に建設され、建設後 25 年以上が経過した建物面積は 154,005 m²で全体の 64.0% である。築後または全面的な機能改修後 25 年以上経過し、老朽化や機能陳腐化によって改修が必要な建物面積は 79,403 m²で全体の 33.0% を占めている。
- 工学部校舎群は改修後25年が経過している。
 - 文法経学部 2 号棟、工学部 2・2 1 号棟、理学部 5 号館、総合校舎 G 号館、学内共同研究センター、体育施設・課外活動施設等が老朽化している。

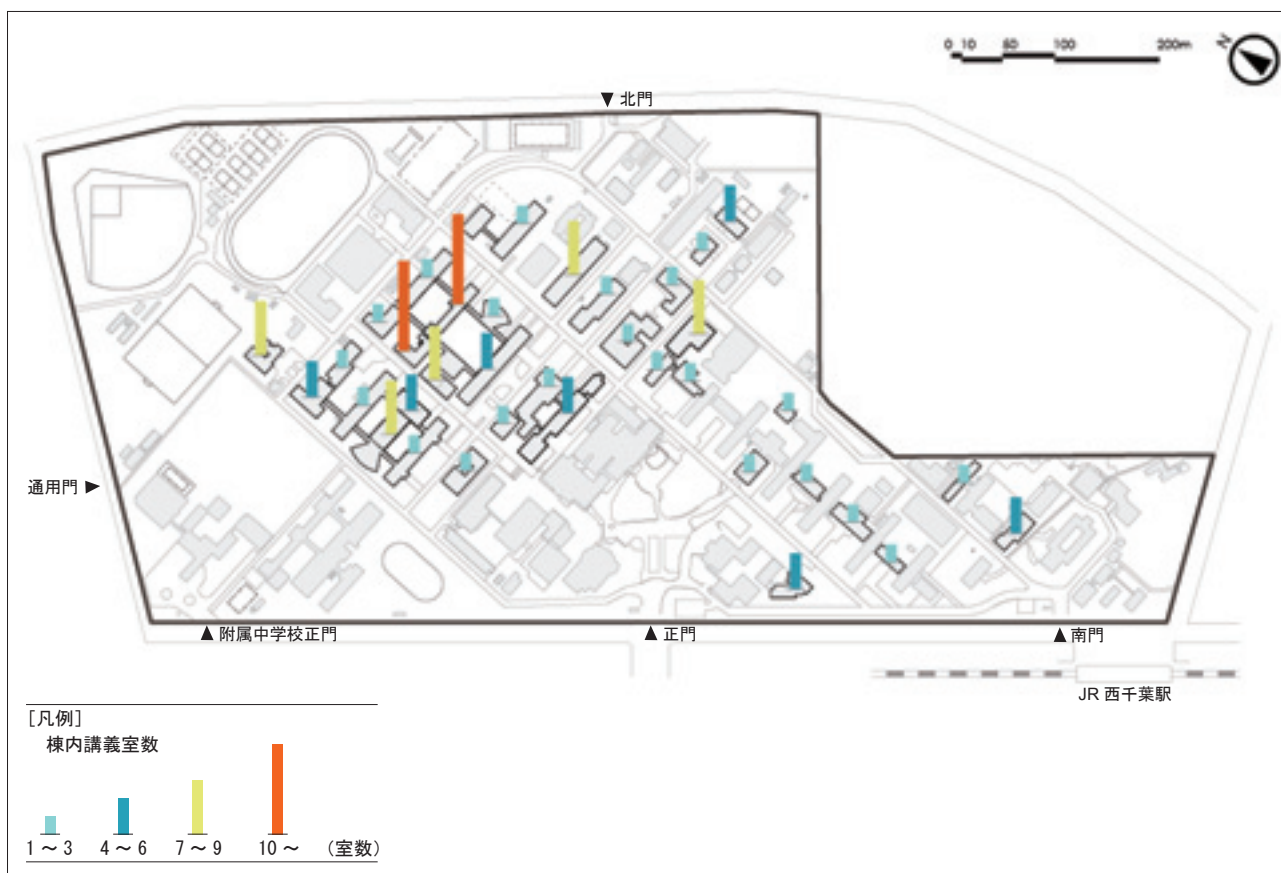
■検討の方向

- 将来的な改修保全と建替えの判定を検討し、アクションプランに反映。
- 共同利用施設や課外活動施設の整備手法。
- 工学部等校舎群の再開発。



(図) 建物の面積 - 機能改修率

1-5 講義室



講義室分布図

「スペースの有効活用に関する取り組み状況」より
平成 23 年 5 月

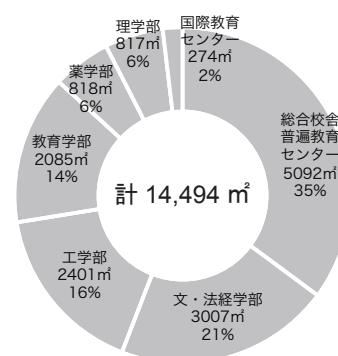
■現状・課題

全体で 137 室ある講義室は、総合校舎に概ね集約されており、その他は各学部で保有している（図 1）。稼働率については、60%以上の稼働率をもつ面積割合は講義室全体の 42.5%である（図 2）。

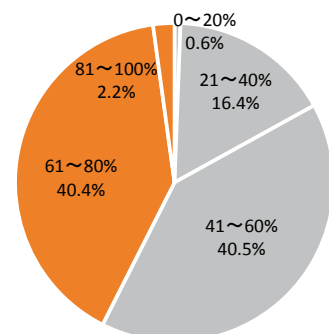
- ・ 全学共同利用されるべき総合校舎がキャンパス中心部になく、正門や南門から遠いところにある。
- ・ 総合校舎と工学部との距離が離れているため、授業間の移動に時間がかかり授業に支障が生じる可能性がある。
- ・ 少人数教育用の演習室が不足している。
- ・ 普遍教育において300名以上を収容できる講義室が不足している。
- ・ 100名程度収容の講義室は、教育体制の変更に伴い、中途半端な規模となっている。

■検討の方向

- ・ 低稼働率の講義室の有効活用と他用途転用。
- ・ 講義室等の部局、学科横断での共有等有効利用のさらなる推進。
- ・ 建物の配置計画とゾーニングに反映。

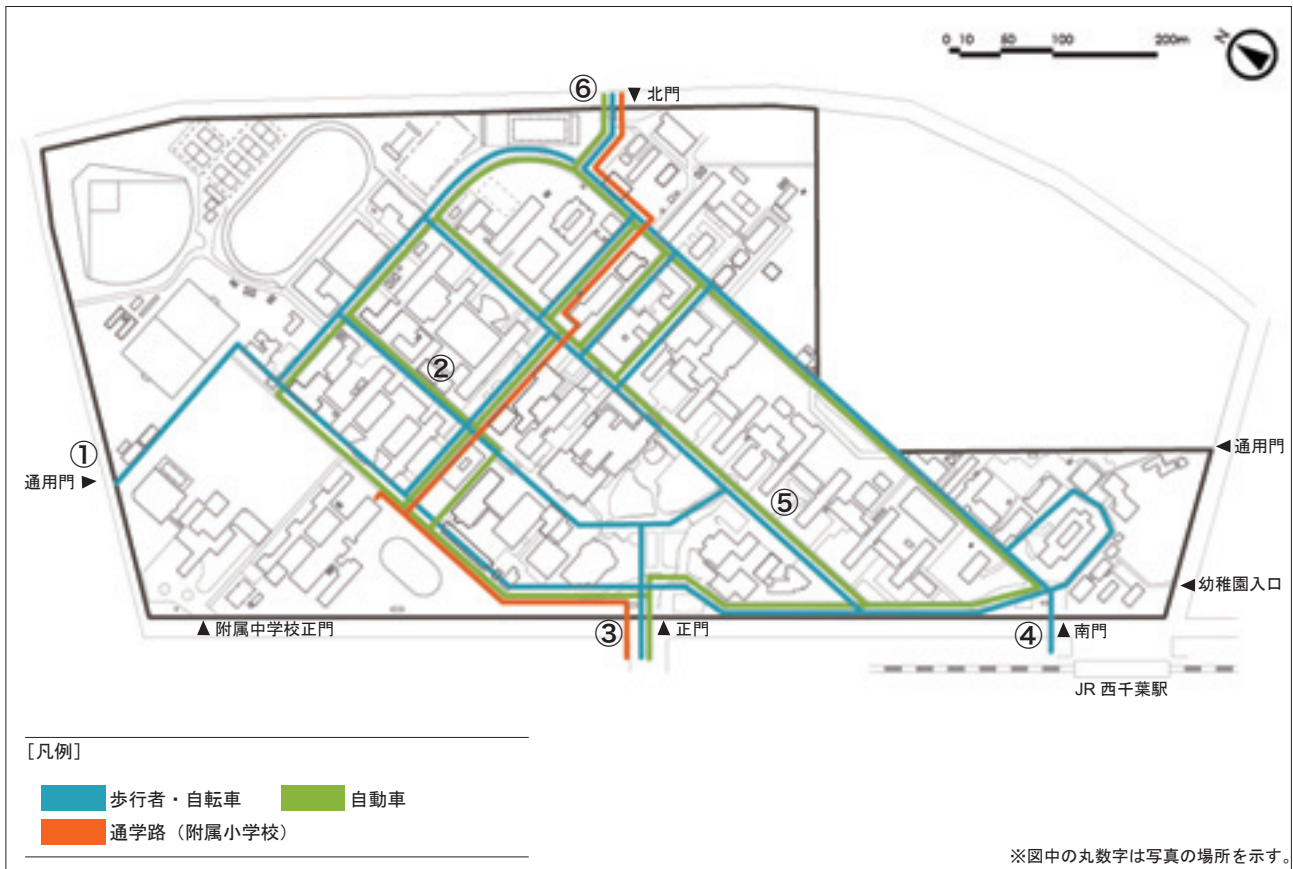


(図 1) 部局別講義室の面積分布



(図 2) 講義室稼働率毎の面積分布

2-1 交通動線



交通動線図

キャンパス整備企画室調査より
平成 23 年

■現状・課題

西千葉キャンパスには7カ所の門があり、自動車の進入は正門と北門に限られている。南門はJR西千葉駅に直近した門で教職員、学生の出入りが最も多い。

- ・ 自動車が中心部にも乗り入れている。
- ・ 歩行者、自動車、自転車の動線分離が十分に図られていない。交通事故も発生している。
- ・ 南門で歩行者と自転車の動線が錯綜する。
- ・ 構内に大型バスの停車スペースがない。

■検討の方向

- ・ 歩車分離、交通ルートの見直し。
- ・ 自動車、自転車乗入禁止ゾーン。
- ・ 自転車と歩行者の通行分離。
- ・ 正門と南門の間に中間門。
- ・ メイン動線の通り名称。



①通用門



②並木通り(教育学部～厚生施設)



③正門



④南門

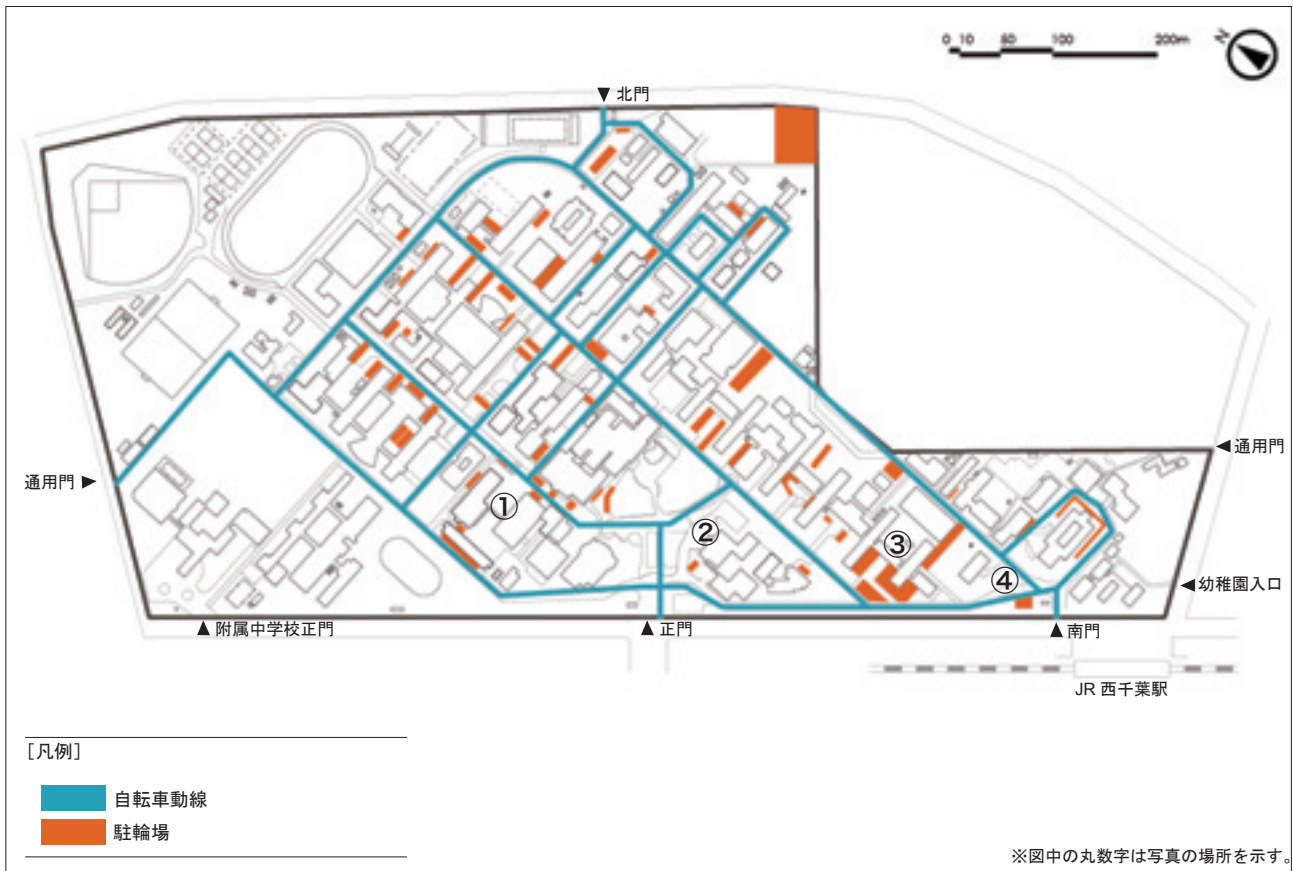


⑤並木通り(理学部～工学部)



⑥北門

2-2 駐輪場



駐輪場分布図

キャンパス整備企画室調査より
平成 23 年 5 月

■現状・課題

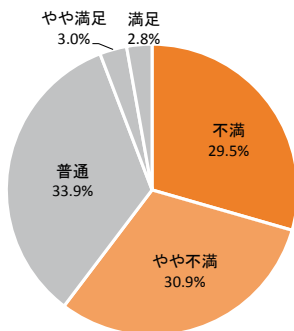
6,634 台の駐輪場が、キャンパス全体に分散配置されている。普遍校舎、厚生施設廻り、南門周辺など時間帯によって駐輪枠を超える自転車が溢れる場所がみられる。

アメニティアンケートでは 6 割程度が自転車数に不満を感じている (図)。

- ・ 厚生施設周辺の空間に自転車が集中し、安全性、美観の観点から問題となっている。
- ・ 自転車の絶対数が多い。
- ・ 駐輪管理システムが十分でない。

■検討の方向

- ・ 自転車乗り入れ禁止ゾーン。
- ・ JR西千葉駅駐輪場との連携。



(図) 自転車の数について



①厚生施設前駐輪場



②図書館前駐輪場

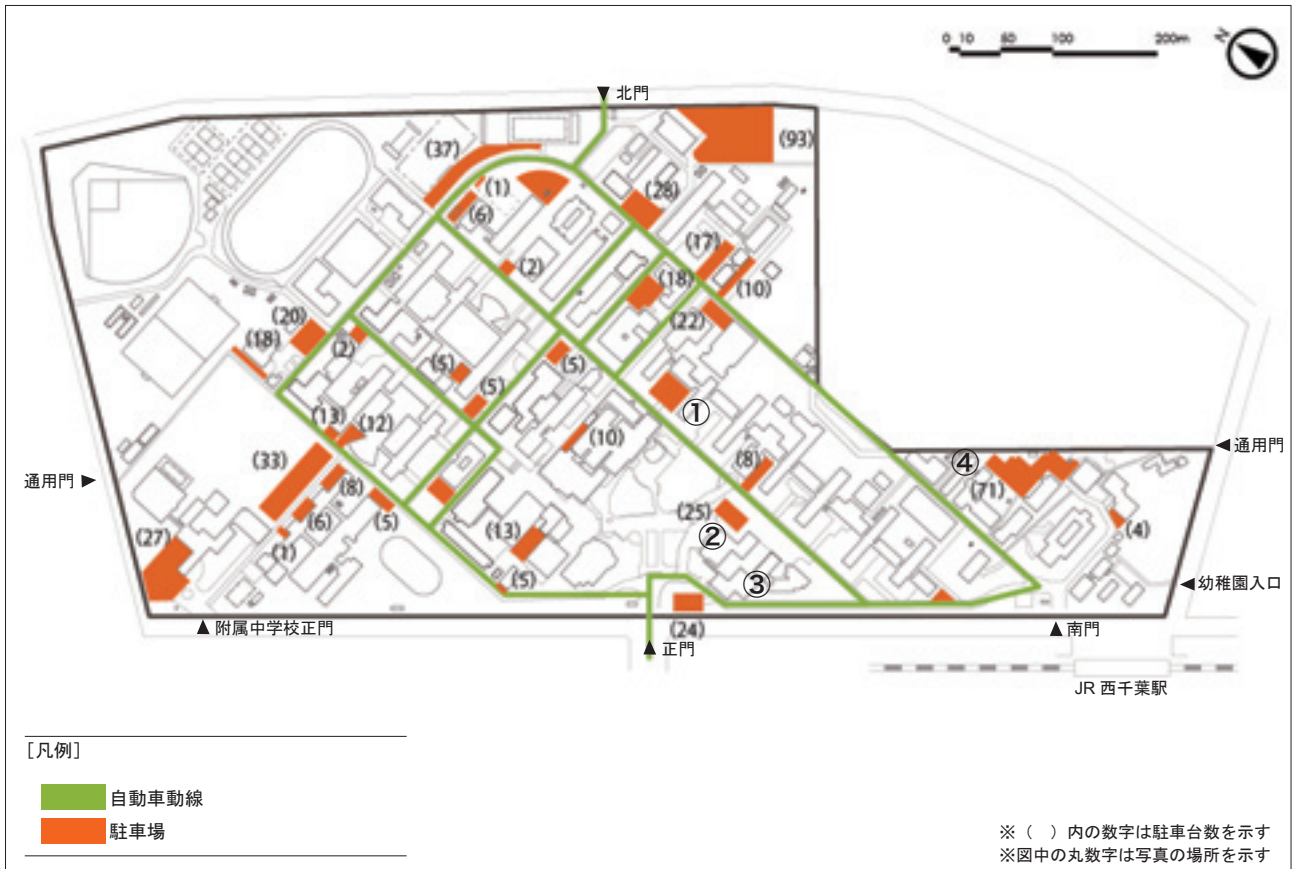


③工学部 4 号館前駐輪場



④南門駐輪場

2-3 駐車場



駐車場分布図

キャンパス整備企画室調査より
平成 23 年 5 月

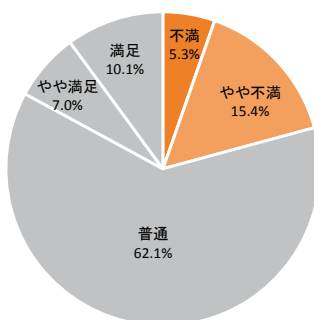
■現状・課題

西千葉キャンパスには、36 箇所に 554 台の駐車場があり、キャンパス全体に分散配置されている。アメニティアンケートでは、約 8 割が駐車場の場所に不満を感じていない (図)。

・ 歩行者中心とすべきゾーンに駐車場が設置されており、結果としてキャンパス中心部への自動車進入を許している。

■検討の方向

- ・ 車両通行ルートの見直し。
- ・ 自転車乗入禁止ゾーン。



(図) 駐車場の場所について



①工学部 15 号棟前駐車場



②大学本部横駐車場

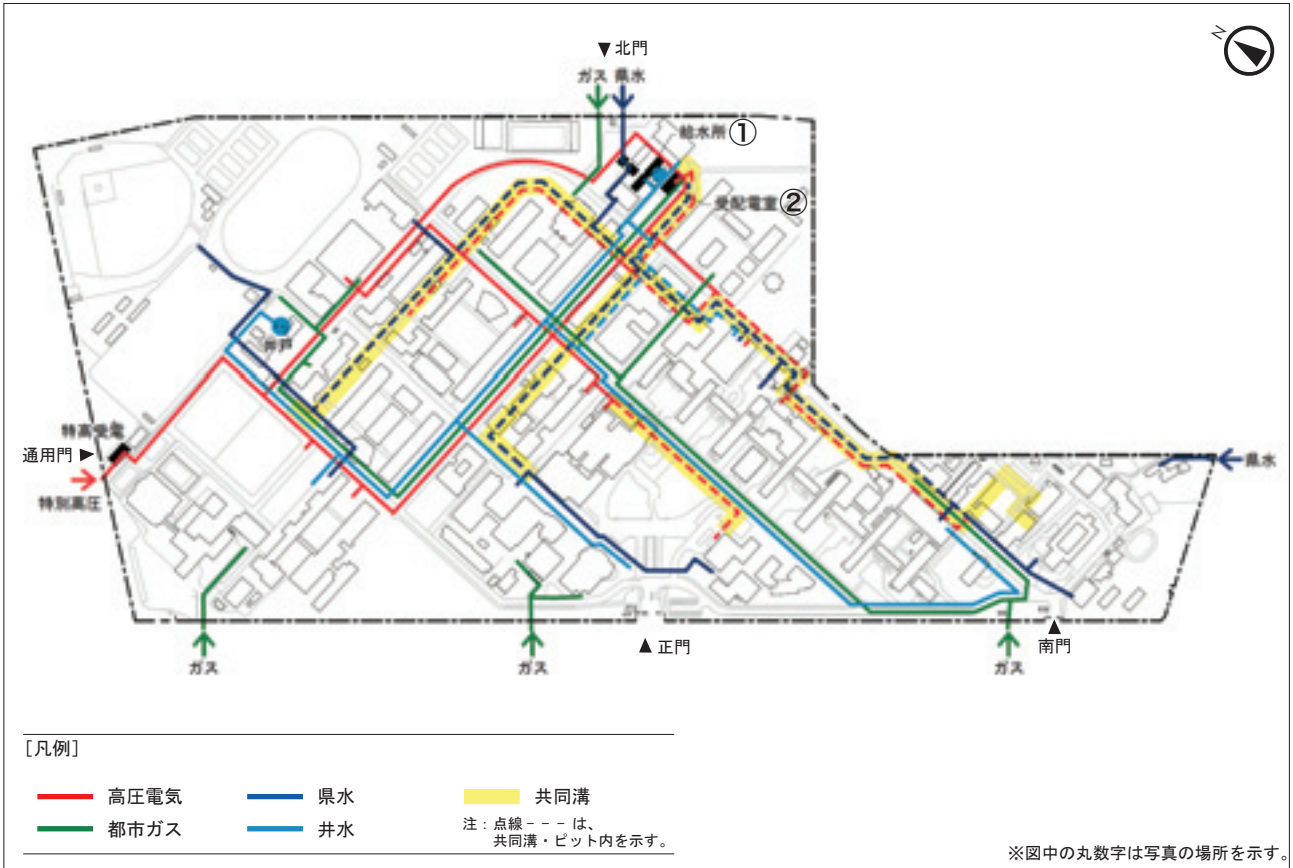


③大型バス停車の現状



④環境リモセン裏駐車場

2-4 基幹設備



基幹設備図

施設環境部データより
平成 23 年 11 月

■現状・課題

西千葉キャンパスの共同溝の設置は一部にとどまっております。その他の電気、ガス、上下水道のインフラ設備は大地震の発生時には被害を受ける可能性がある。



①給水所



②受配電室

(表) 基幹設備の現状と検討の方向

	現状	検討の方向
共同溝	不要暖房管を撤去すれば、スペース的には余裕がある。全ての建物には接続していない。	既存共同溝を利用することを基本とし、再開発計画に応じて増設・変更を行うものとする。
県水	メインルートはほぼ共同溝内であるが、ポンプ室から共同溝までが部分的に埋設となっている。	共同溝を増設しポンプ室から共同溝までを共同溝内配管として計画。
井水	メインルートの大半が埋設配管であるため、県水と同ルートの共同溝内配管	県水と同ルートの共同溝内配管で計画
ガス	埋設配管。	現状通りとする。
電力	ほぼ埋設管路である。	共同溝内に敷設で計画。

■検討の方向

- ・ 維持管理コストの低減を図る共同溝の段階的整備手法。
- ・ 修繕や設置期間と場所など管理の記録のデータ化。
- ・ 災害に強い基幹設備。

2-5 エネルギー消費量・CO₂排出量

■現状・課題

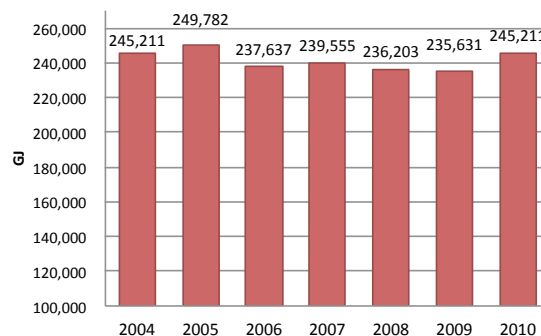
西千葉キャンパスは、2010年度に年間245,211GJのエネルギーを消費しており（図1）、年間10,236tのCO₂を排出している（図3）。また、CO₂削減の中長期の目標を設定し、エネルギー使用量の見える化を推進している。

- ・工学部は渡り廊下の構造上、外気の影響が大きく冷暖房効率が悪い。
- ・室単位での電力管理ができない。

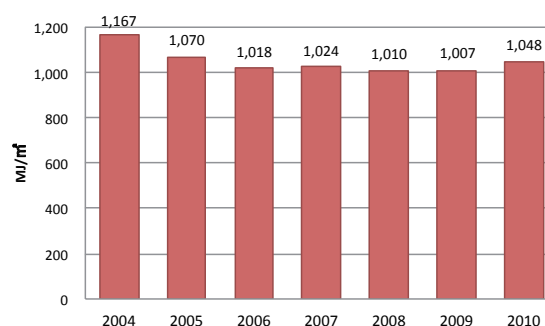
■検討の方向

- ・太陽光発電設備設置など自然エネルギー活用の具体的方策。
- ・CASBEE導入。

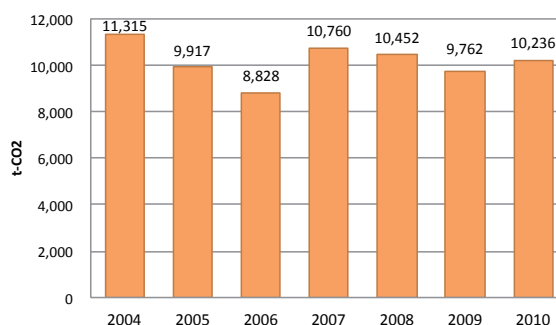
※CASBEE(Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)建築環境総合性能評価システムの意。



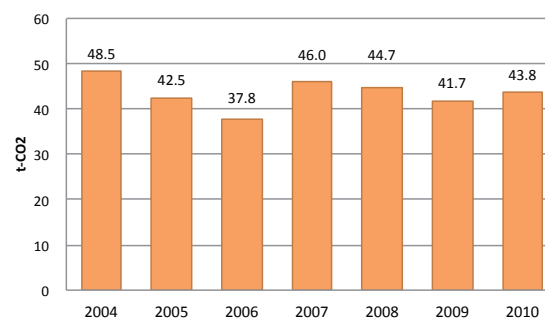
（図1）エネルギー消費量（GJ）



（図2）エネルギー消費量原単位（MJ/m²）

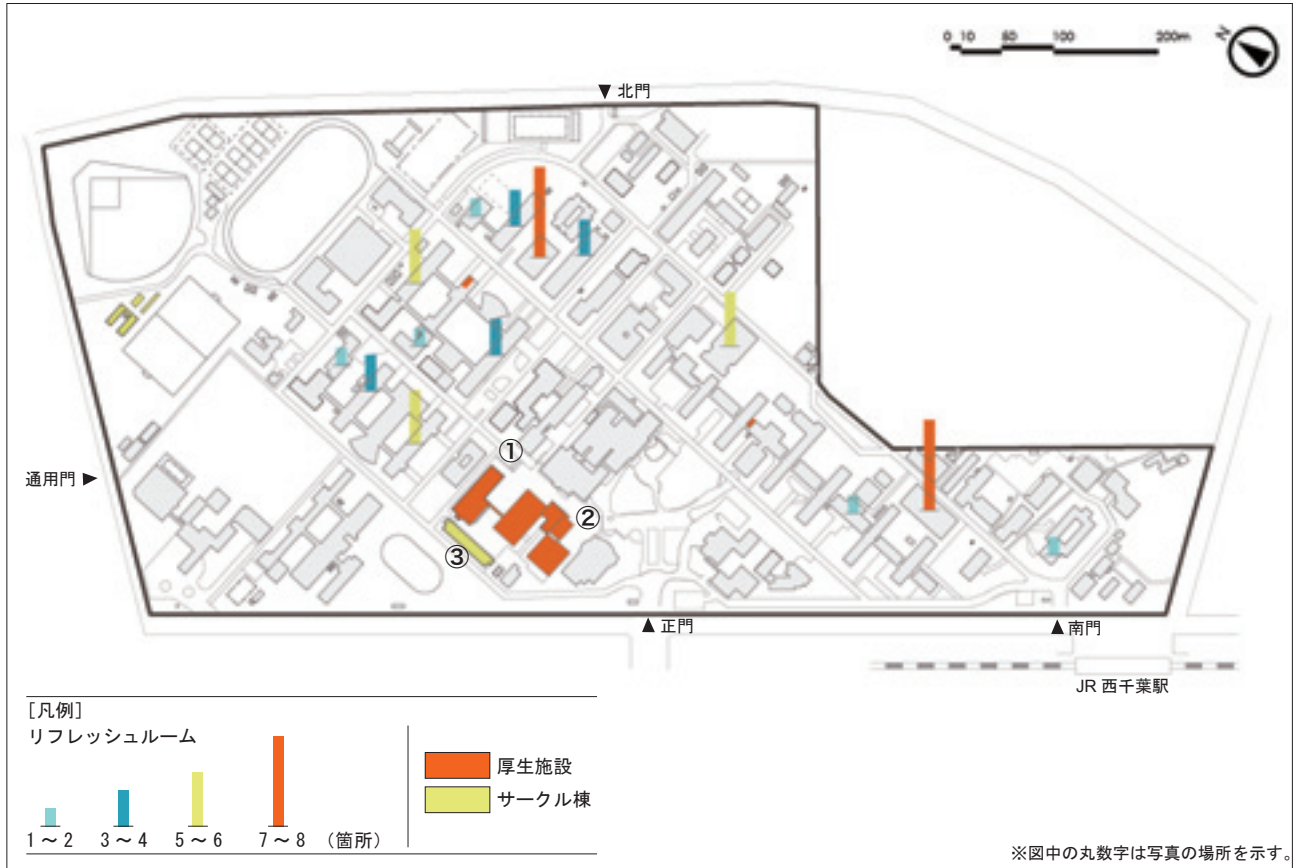


（図3）CO₂排出量（t-CO₂）



（図4）CO₂排出量原単位（t-CO₂/m²）

3-1 学生スペース・交流スペース



学生・交流スペース分布図

キャンパス整備企画室調査より
平成 23 年 6 月

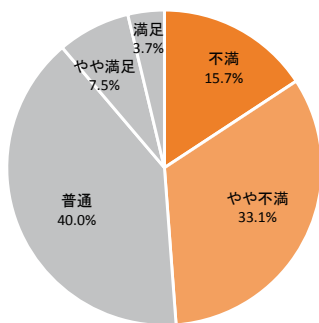
■現状・課題

リフレッシュルームが 29 箇所、計 693 m²あり、各建物に分散配置されている。厚生施設はキャンパス中央部に集約配置されている。アンケートでは約半数が屋内休憩スペースに不満を感じている(図)。全学共同利用される総合校舎は利便性の高いキャンパス中心部や門周辺に位置していない。

- ・ リフレッシュルームの配置のバランスがとれていない。
- ・ 昼休みに講義室で昼食をとる学生が多く講義室等のゴミ問題がある。
- ・ 学生や教職員・学外者の交流スペースが不足している。

■検討の方向

- ・ 教育、研究施設だけではない学びの場を形成するため、学生スペース充実。
- ・ 自発的学習スペースの充実。
- ・ 学生や教職員、学外者の交流の場。
- ・ 研究者交流スペース。



(図) 屋内休憩スペースの満足度



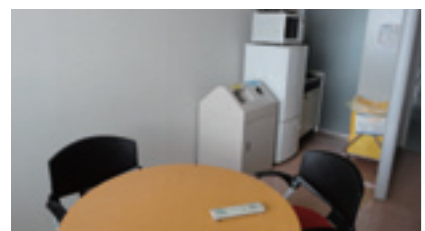
①厚生施設



②厚生施設



③サークル会館



④リフレッシュコーナー

3-2 広場・オープンスペース



広場・オープンスペース分布図

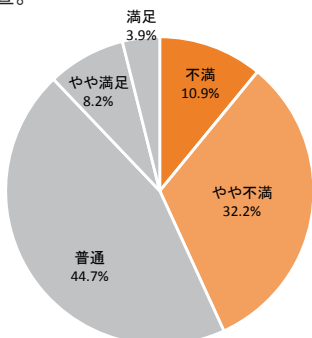
キャンパス整備企画室調査より
平成 23 年 5 月

■現状・課題

広場はかたらいの森、普遍校舎中庭等があり、ベンチが 30 箇所ある。アンケートでは約 4 割が屋外休憩スペースに不満を感じている（図）。

■検討の方向

- ・ポケットパークのバランスの良い配置。
- ・アプローチ（門）の直近に広場を配置。



（図）屋外休憩スペースの満足度



①総合校舎中庭



②法経学部前



③工学部 17 号棟周辺



④かたらいの森

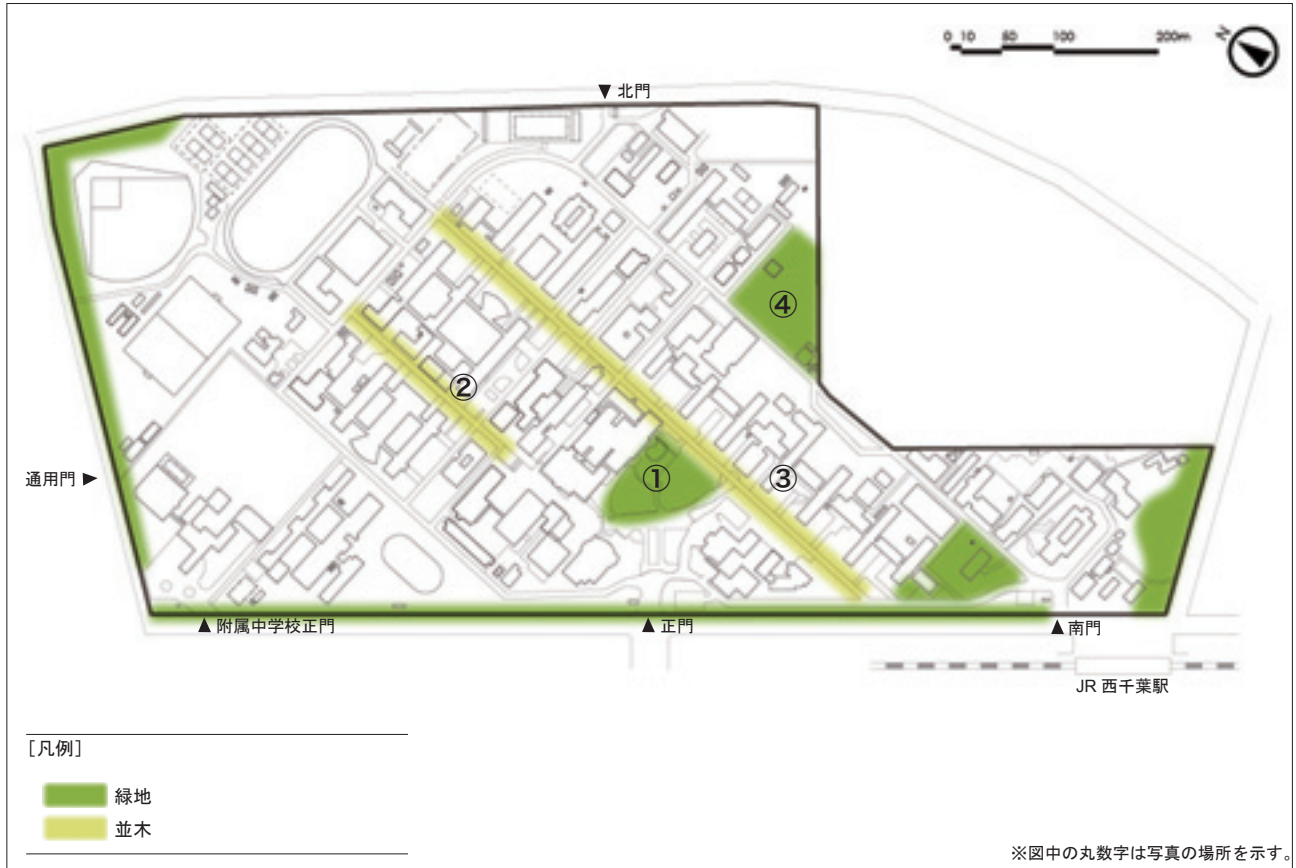


⑤大学福利施設前



⑥国際教育センター前

3-3 樹木・緑地



緑地分布図

キャンパス整備企画室調査より
平成 23 年 5 月

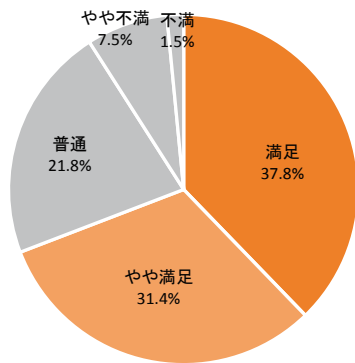
■現状・課題

西千葉キャンパスの樹木・緑地は豊かであり、かたらいの森、けやき並木、桜並木、薬草園などのランドスケープ資源がある。西千葉キャンパスの教職員、学生へのアメニティアンケートでも樹木の量に関する満足度が高い(図)。

- ・ 現在緑地になっている箇所が十分に管理されていない。
- ・ 樹木、緑地の十分な管理計画がつけられていない。
- ・ 記念植樹など場当たりに植樹されている事例が見受けられる。

■検討の方向

- ・ 緑化環境（屋外環境・ランドスケープ整備）計画。
- ・ 樹木、緑地の維持管理計画（指針）。



(図) 樹木の量について



①かたらいの森



②並木通り（厚生施設～教育学部）



③並木通り（工学部～理学部）



④薬草園

3-4 シンボル・歴史資源



シンボル・歴史資源分布図

※図中の丸数字は写真の場所を示す。

千葉大学ホームページ他より
平成 23 年 5 月

■現状・課題

西千葉キャンパスは、建築物等の歴史資源に乏しい。

- ・ シンボルとなるものが少ない。
- ・ やよいの鐘のシンボリック性を十分に活かし切れていない

■検討の方向

- ・ 歴史資源を活用したキャンパス整備。
- ・ シンボリックなもの（ランドマーク、アイキャッチ等）。



①かたらいの森



②桜とけやきのプロムナード



③附属図書館



④自然科学系総合研究棟 2



⑤やよいの鐘



⑥サイエンスプロムナード

3-5 サイン・情報掲示



サインマップ

キャンパス整備企画室調査より
平成 23 年 5 月

■現状・課題

西千葉キャンパスには、正門、南門、北門の各所に全体案内板がある。表示、誘導サインは、部局が独自に作成し設置している。学会等のイベントの情報は随時立看板で掲示されている。

- ・西千葉キャンパスのサイン（表示、誘導、案内）は、デザインがばらばらで統一感がない。
- ・アメニティアンケートでは誘導サインが分かりにくいという不満が約6割と多い。
- ・特に南門周辺の立看板が乱立し、統一感がない。

■検討の方向

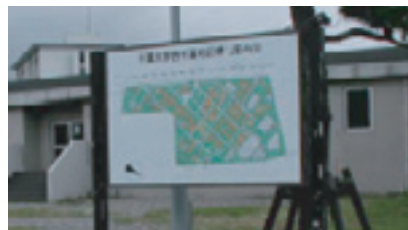
- ・サイン整備計画。
- ・国際化に対応する表記方法。
- ・インフォメーションセンター設置。
- ・情報発信のための掲示手法（看板等）のあり方。
- ・動線計画見直しの交通サインへの反映。



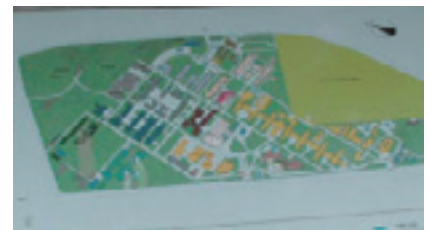
①南門総合案内



②拠点案内



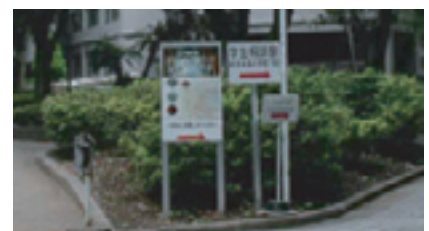
③北門総合案内



④正門総合案内

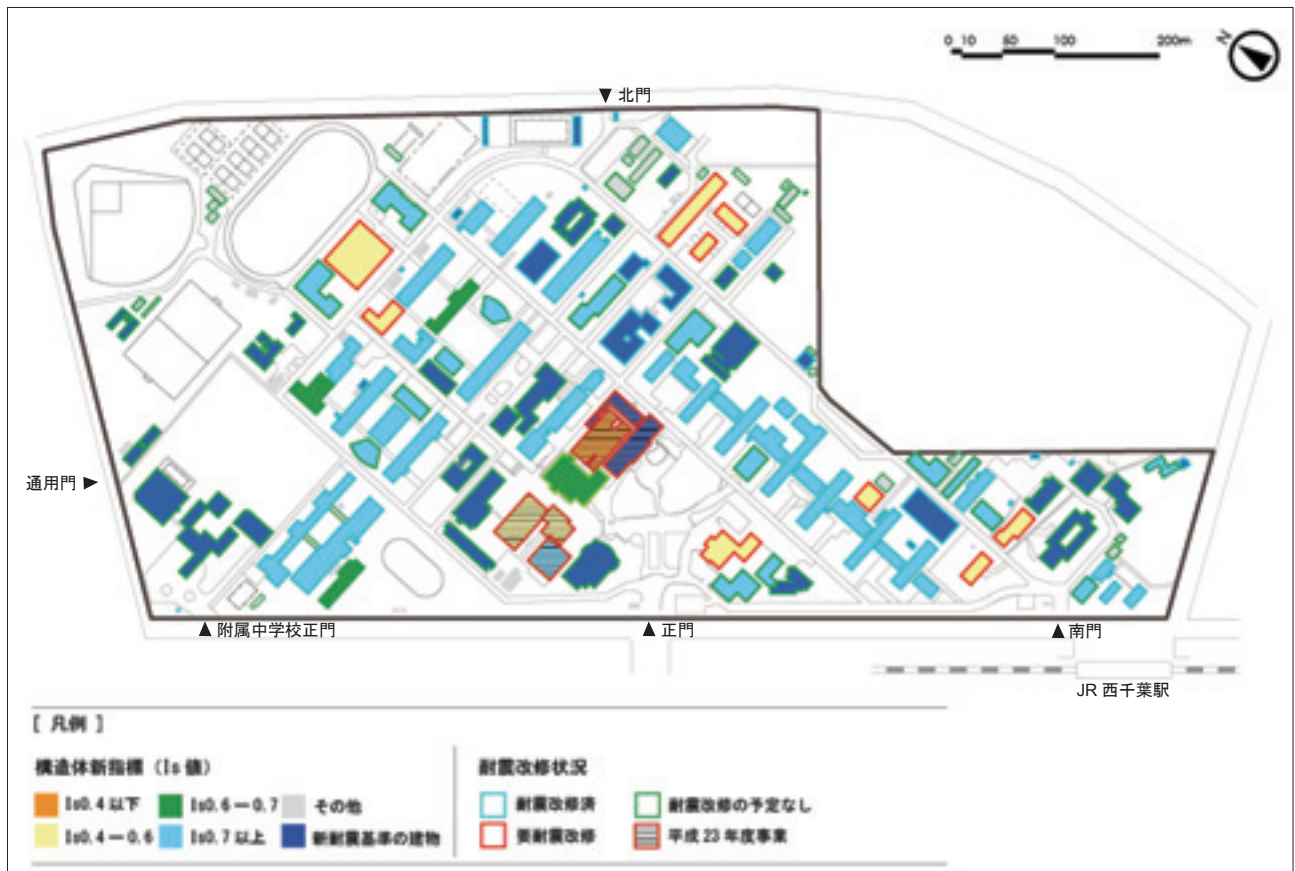


⑤誘導表示



⑥誘導表示

4-1 耐震改修



構造耐震指標 (Is 値) 別・耐震改修状況別配置図

平成 23 年度施設実態報告より
平成 23 年 5 月

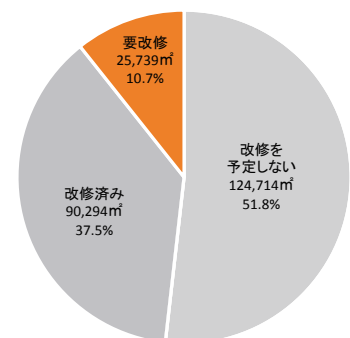
■現状・課題

1981 年以前の旧耐震基準による耐震基準による建物のうち、耐震化対象建物は 116,033 m² で保有面積全体の 48.2%である。

このうち、90,294 m² (37.5%) は耐震改修が済んでおり、構造耐震指標である Is 値が著しく劣る 0.4 以下の建物は 4,450 m² (1.8%) だが 2011 年度中に耐震化が完了した。現在、Is 値が 0.4 を超え 0.7 未満で耐震改修が必要な建物面積は 21,289 m² (8.8%) である。

■検討の方向

- 耐震改修が必要な建物の整備手法。

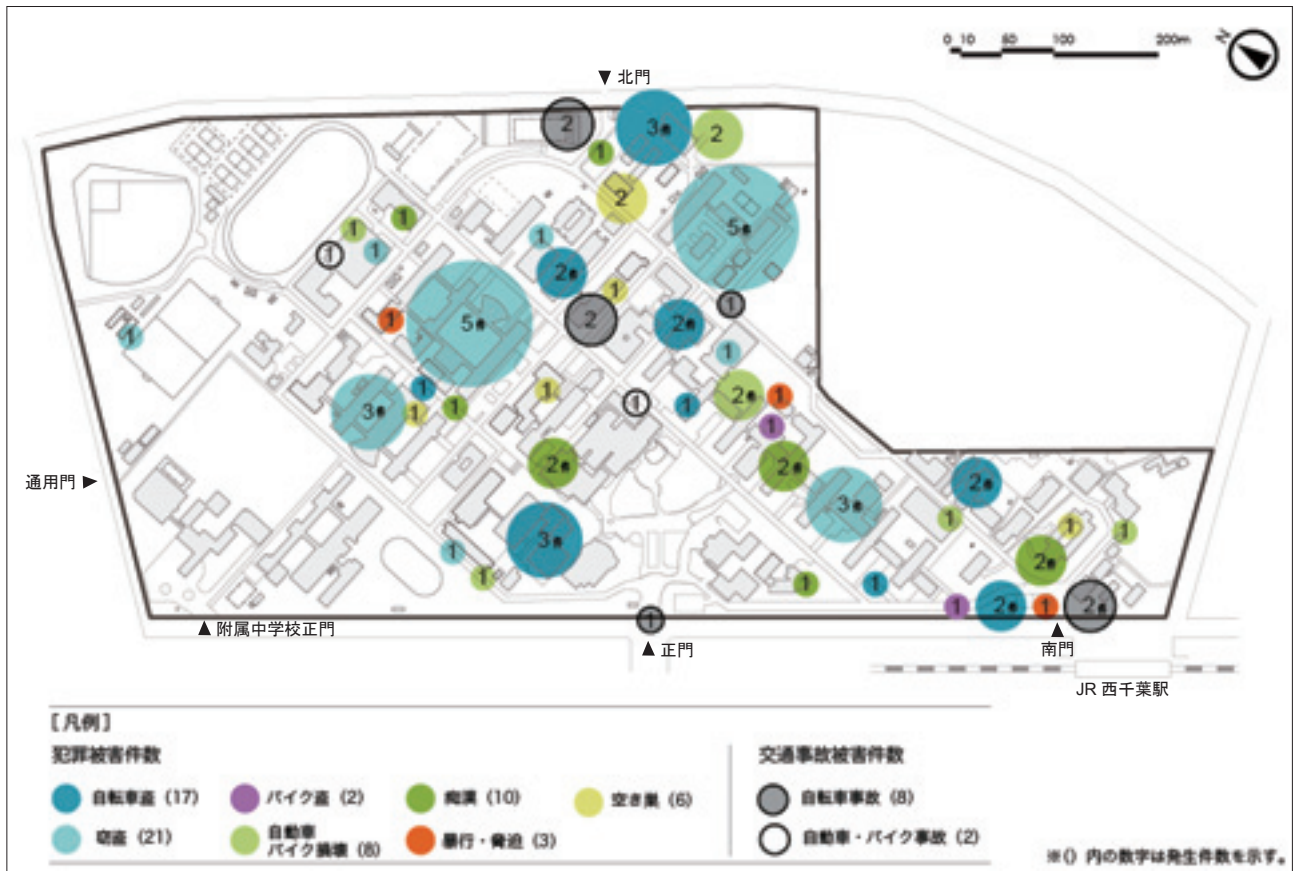


(図) 建物の耐震改修面積比率

色区分	構造耐震指標 (Is 値)	保有面積	割合	耐震化対象面積	割合	耐震改修済面積	割合	要耐震改修面積	割合	耐震改修を予定しない面積	割合
—	旧耐震基準の建物 (2011年以前に完成)	145,075m ²	60.2%	116,033m ²	100.0%	90,294m ²	100.0%	25,739m ²	100.0%	29,042m ²	23.2%
■	Is値0.4以下の建物	4,450m ²	1.8%	4,450m ²	3.8%	0m ²	0.0%	4,450m ²	17.3%	0m ²	0.0%
■	Is値0.4を超え0.6未満の建物	21,289m ²	8.8%	21,289m ²	18.3%	0m ²	0.0%	21,289m ²	82.7%	0m ²	0.0%
■	Is値0.6以上0.7未満の建物	14,287m ²	5.9%	8,031m ²	6.9%	8,031m ²	8.9%	0m ²	0.0%	6,256m ²	5.0%
■	Is値0.7以上の建物	100,946m ²	41.9%	82,263m ²	70.9%	82,263m ²	91.1%	0m ²	2.0%	18,682m ²	15.0%
■	その他の建物 (標準的耐震性能)	4,102m ²	1.7%	0m ²	0.0%	0m ²	0.0%	0m ²	0.0%	4,102m ²	3.3%
■	新耐震基準の建物 (2011年以降に完成)	95,672m ²	39.7%	0m ²	0.0%	0m ²	0.0%	0m ²	0.0%	95,672m ²	76.7%
計		240,747m ²	100.0%	116,033m ²	100.0%	90,294m ²	100.0%	25,739m ²	100.0%	124,714m ²	100.0%
(保有面積に対する各面積の比率)		—	—	25.2%/25.1%	48.2%	25.2%/25.1%	37.5%	25.2%/25.1%	10.7%	25.2%/25.1%	51.8%

(表) 構造耐震指標 (Is 値) 別保有面積および耐震改修面積

4-2 犯罪・事故



セキュリティマップ

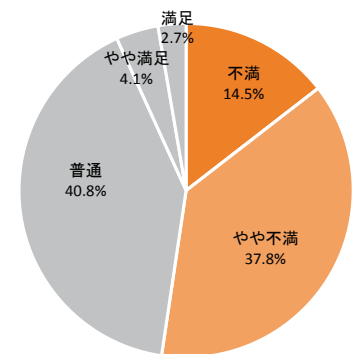
犯罪・事故等の実態把握アンケートより
平成 23 年 2 月

■現状・課題

西千葉キャンパスでは、68 件の犯罪、10 件の交通事故が発生している。犯罪のうち最も多いのは窃盗で 21 件、次いで自転車盗が 17 件、痴漢が 10 件である。犯罪・事故は、南門、総合校舎周辺で最も多く発生している。

■検討の方向

- ・ 建物セキュリティ確保のための標準仕様の策定。



(図) 防犯上危ない場所の対策について

4-3 外灯



照度分布図

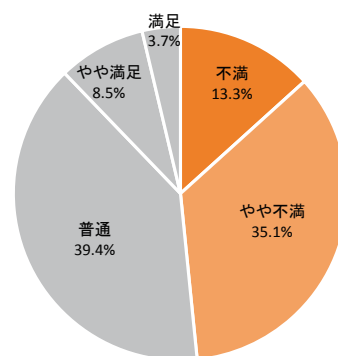
外灯改修計画より
平成 22 年 11 月

■現状・課題

主要な道路の外灯、照度は比較的十分であるが、一部に暗がりが生じている部分がある。アメニティアンケートでは、外灯の明るさに対し、ほぼ半数が不満を感じている（図）。外部空間の照度を調査し、外部照明計画により安全性の確保を推進している。

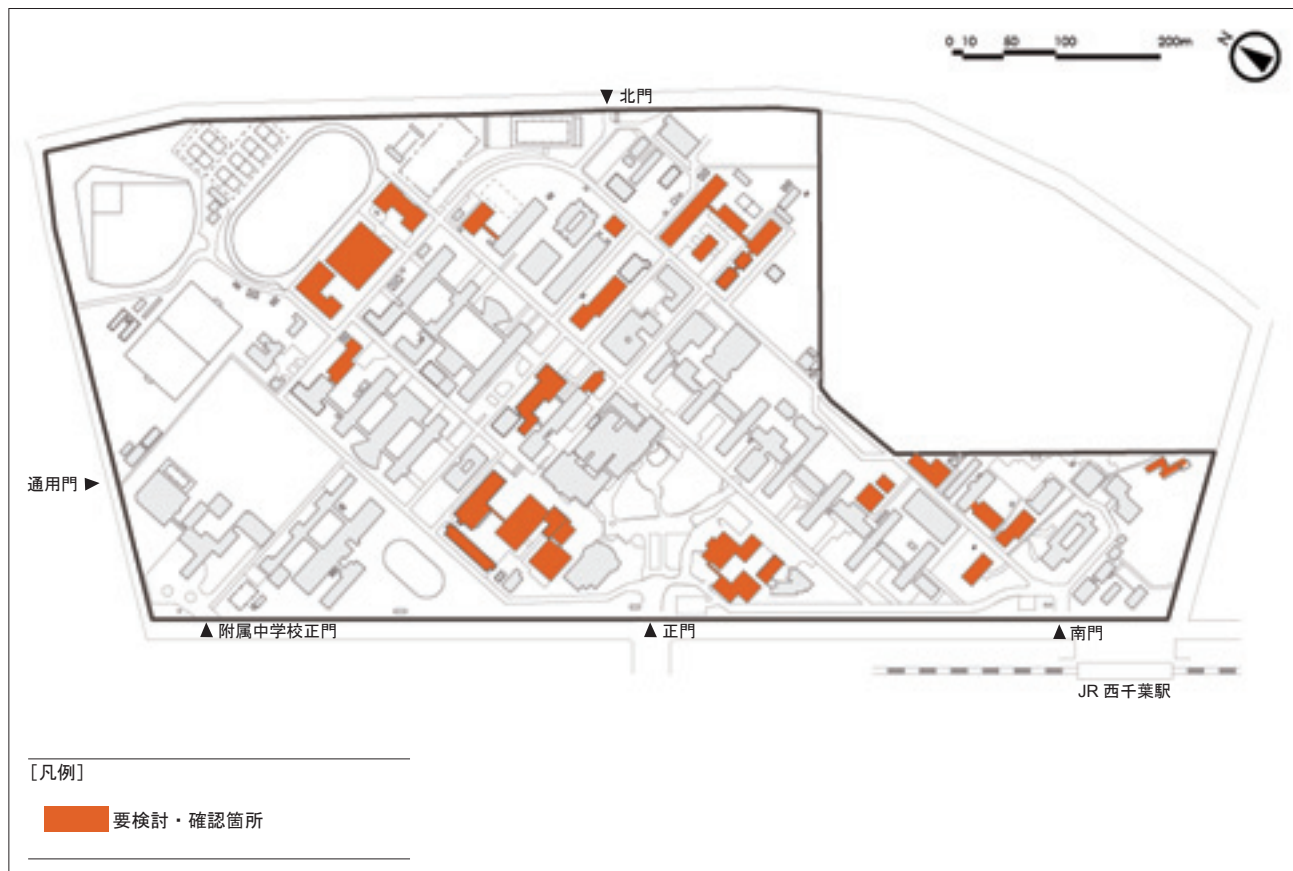
■検討の方向

- ・ 外灯の増設を進める。



(図) 外灯の明るさについて

4-4 バリアフリー



バリアフリーマップ

キャンパス整備企画室調査より
平成 22 年 5 月

■現状・課題

西千葉キャンパスでは、身障者エレベーター、身障者トイレ、スロープの整備を推進中である。

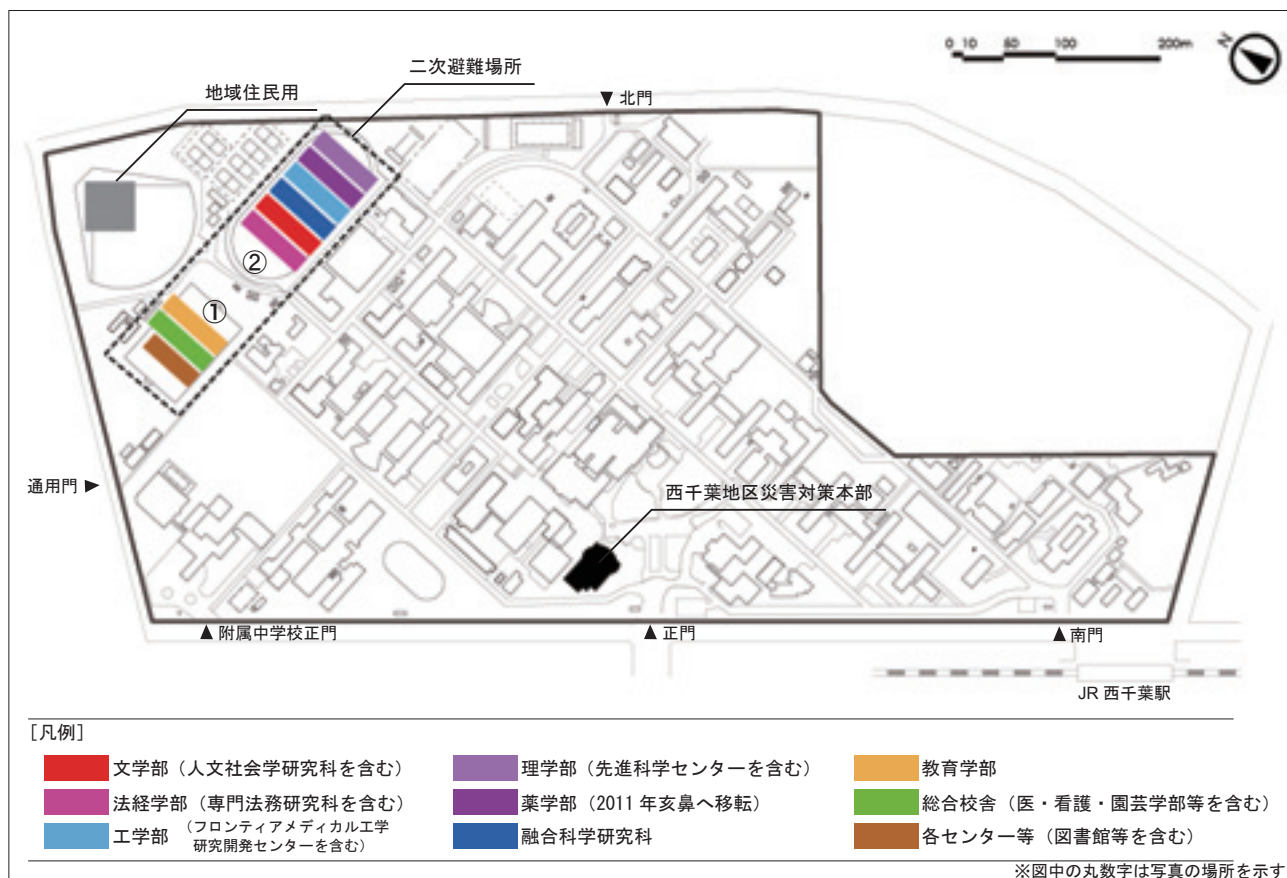
- ・バリアフリー整備を推進中であるが、十分ではない。

■検討の方向

単なる斜路を設けただけの不適切な整備も見られる。

- ・バリアを解消する整備手法。
- ・ユニバーサルデザイン。

4-5 避難場所



避難場所マップ

※図中の丸数字は写真の場所を示す。

「千葉大学防災のしおり」より

平成 23 年 5 月

■現状・課題

西千葉キャンパスは、千葉市の広域避難場所に指定されている。「千葉大学震災対策要項」において、二次避難場所としてキャンパス北側の陸上競技場・サッカー場が指定されている。

■検討の方向

- ・ 災害時の拠点（構成員用備蓄等を含む）

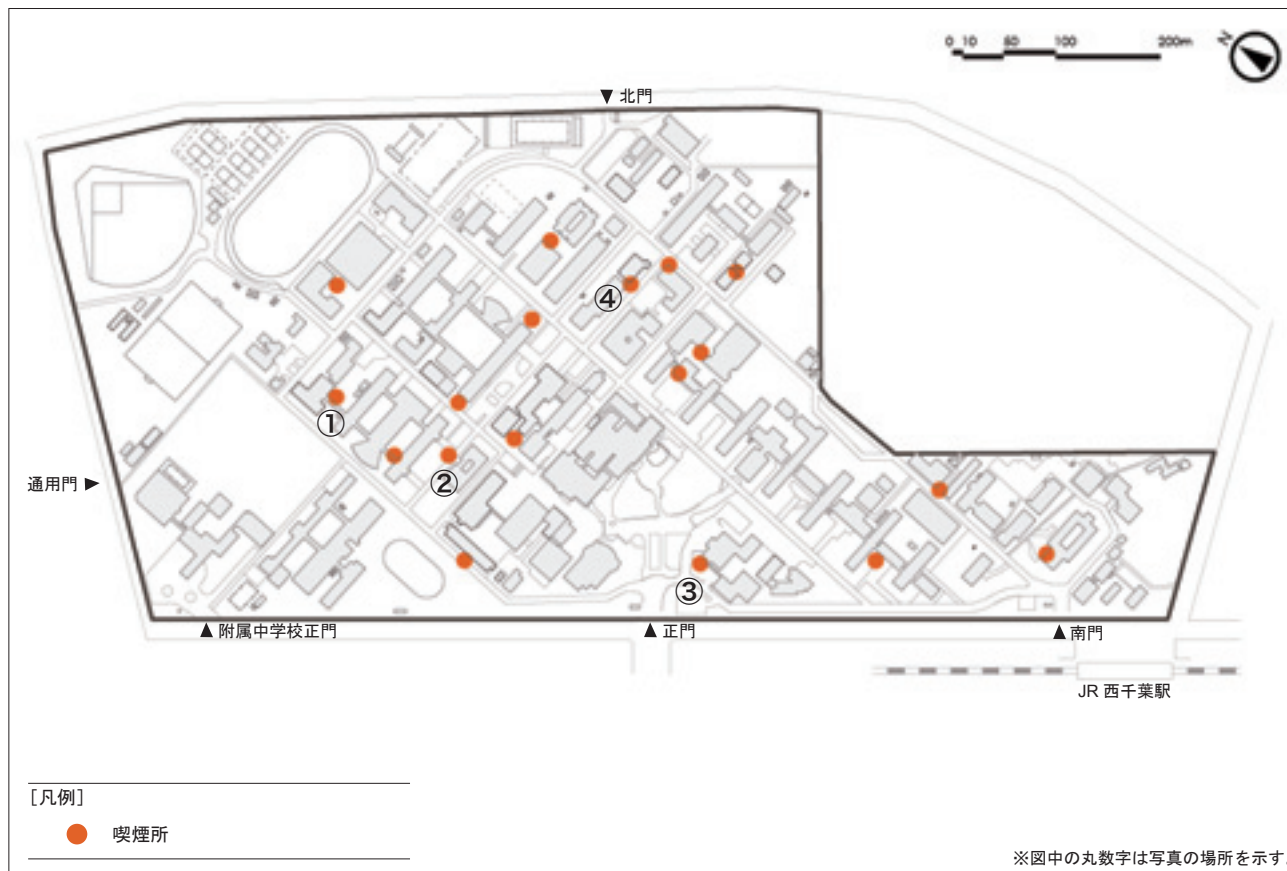


①二次避難場所（サッカー場）



②二次避難場所（陸上競技場）

4-6 喫煙場所



喫煙場所分布図

喫煙所マップより
平成 23 年 11 月

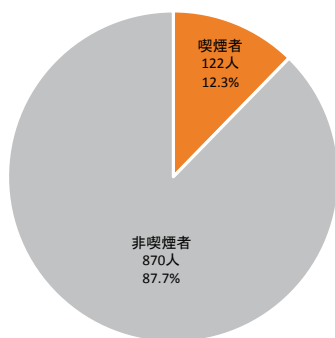
■現状・課題

西千葉キャンパスは、2011年に指定喫煙所以外を敷地内禁煙とし、喫煙所は18箇所とした。安全衛生管理機構のアンケートによると西千葉キャンパス構成員の喫煙率は12.3%である。(図)

・単純に喫煙場所を指定しただけで、受動喫煙の対策が不十分。

■検討の方向

・全面禁煙を含めたキャンパス敷地内の喫煙のあり方。



(図) 喫煙率 (学生・教職員等)



①教育学部5号館周辺



②社会文化科学系総合研究棟周辺

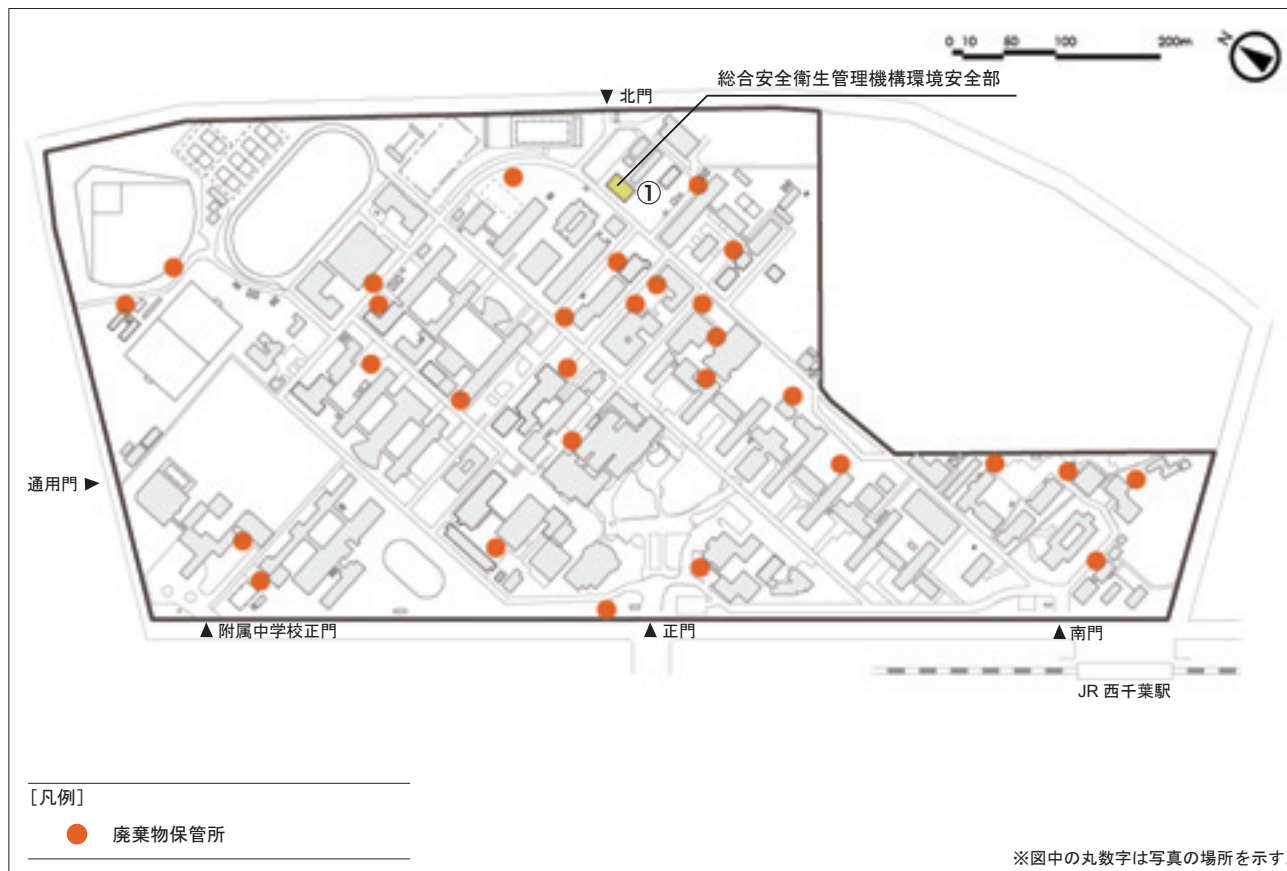


③事務局周辺



④理学部周辺

4-7 廃棄物



廃棄物保管所マップ

■現状・課題

西千葉キャンパスでは、各部局にて、可燃ゴミ・資源物・有害ゴミ・紙ゴミ等に分別し収集している。

また、総合安全衛生管理機構環境安全部にて、実験廃液等の収集一括処理（年5回）を行っている。

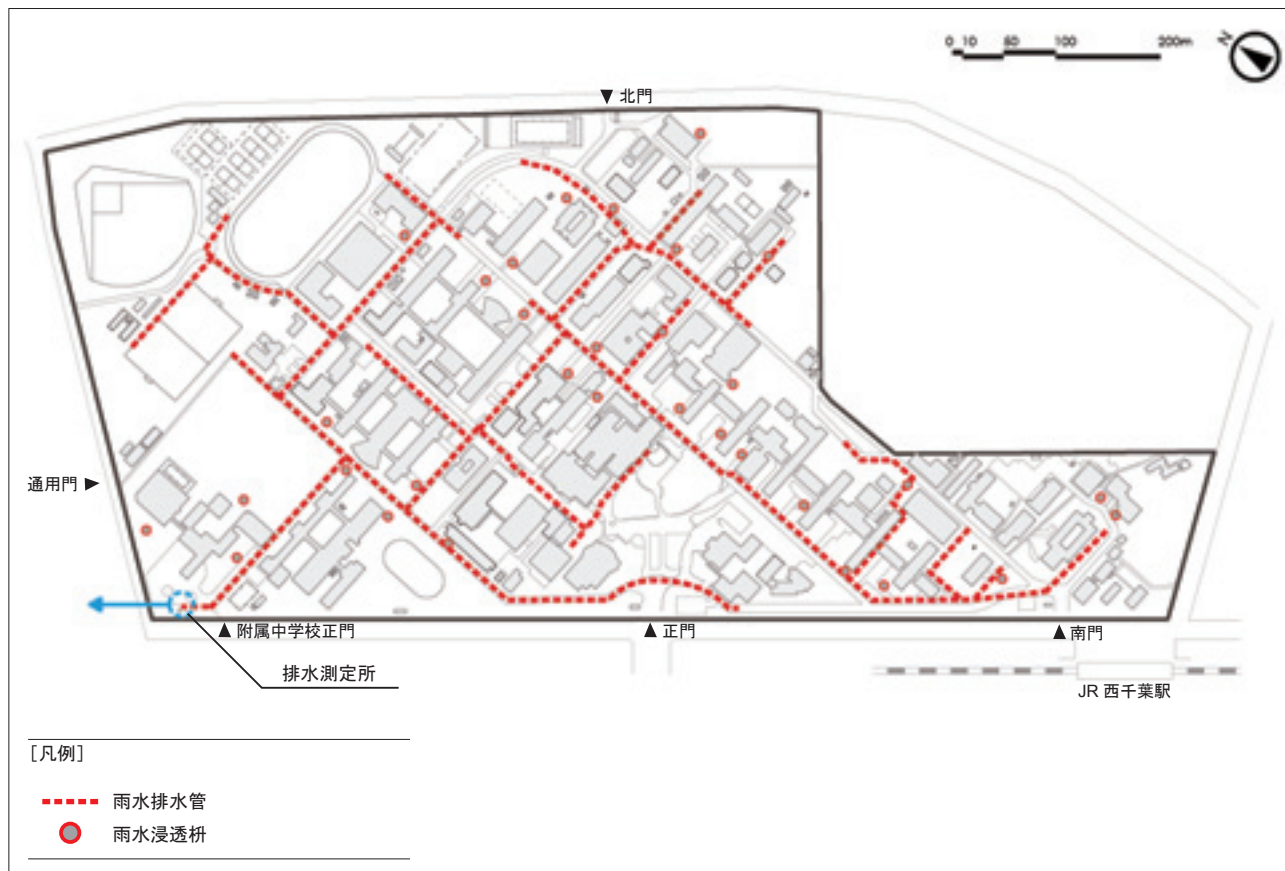


①総合安全管理機構環境安全部

■検討の方向

- ・ 分別の徹底。

4-8 都市型豪雨



雨水排水経路図

施設環境部データより
平成23年11月

■現状・課題

西千葉キャンパスでは、千葉市水道局による敷地内の浸透枮の設置（32カ所）が進み、都市型豪雨による大きな被害はなく、周辺地域への雨水の流れ出しもない。

■検討の方向

- ・ 雨水排水系の強化。
- ・ 水はけの悪い箇所の把握と改善。

5-1 全学共同利用スペース

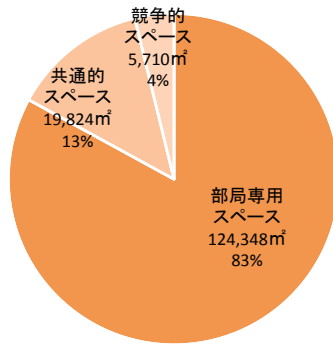
■現状・課題

西千葉キャンパスの全学共同利用スペース（共通的空间、競争的空间）は、25,534㎡で、各部局に分散配置されている（図）。一部のスペースは、耐震改修工事の避難スペースとして利用されている状況があるが、耐震改修の進捗が進むことで、有効活用されるようになる。

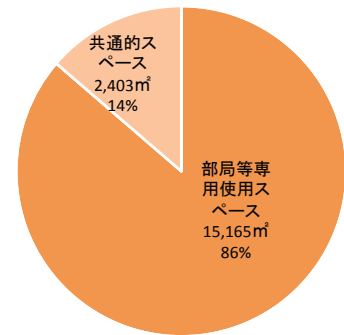
- ・スペースの活用が十分でない。
- ・一つ棟に複数部局が混在しており、部局での管理・運用が難しい。
- ・競争的空间がキャンパス全体に散在している。

■検討の方向

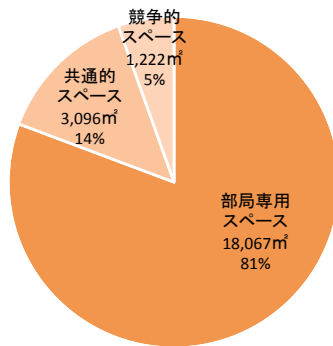
- ・ファシリティマネジメント推進とスペース有効利用。
- ・施設管理体制の見直し。
- ・競争的空间の集約化。



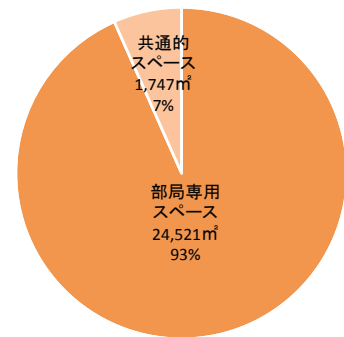
(図1) 全学共同利用スペース面積比



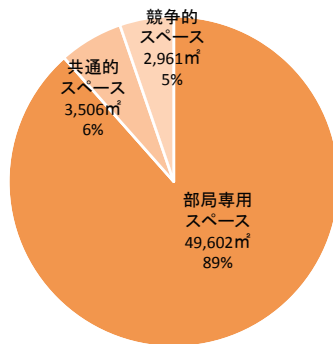
(図2) 文・法経学部



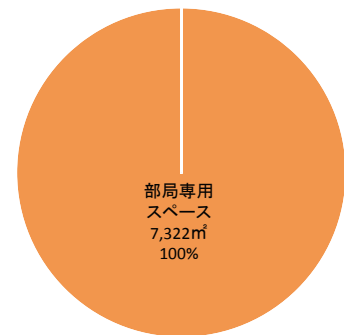
(図3) 教育学部・教育学研究科



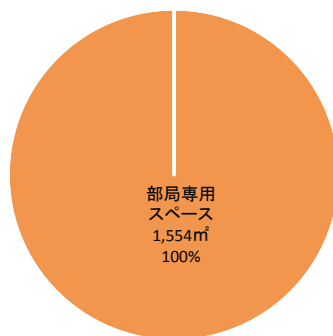
(図4) 理学部・理学研究科



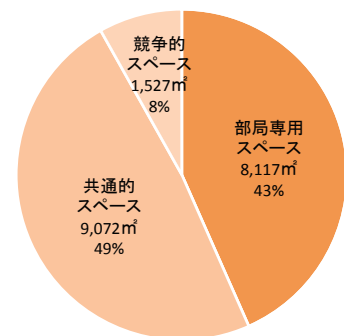
(図5) 工学部・工学研究科



(図6) 融合科学研究科

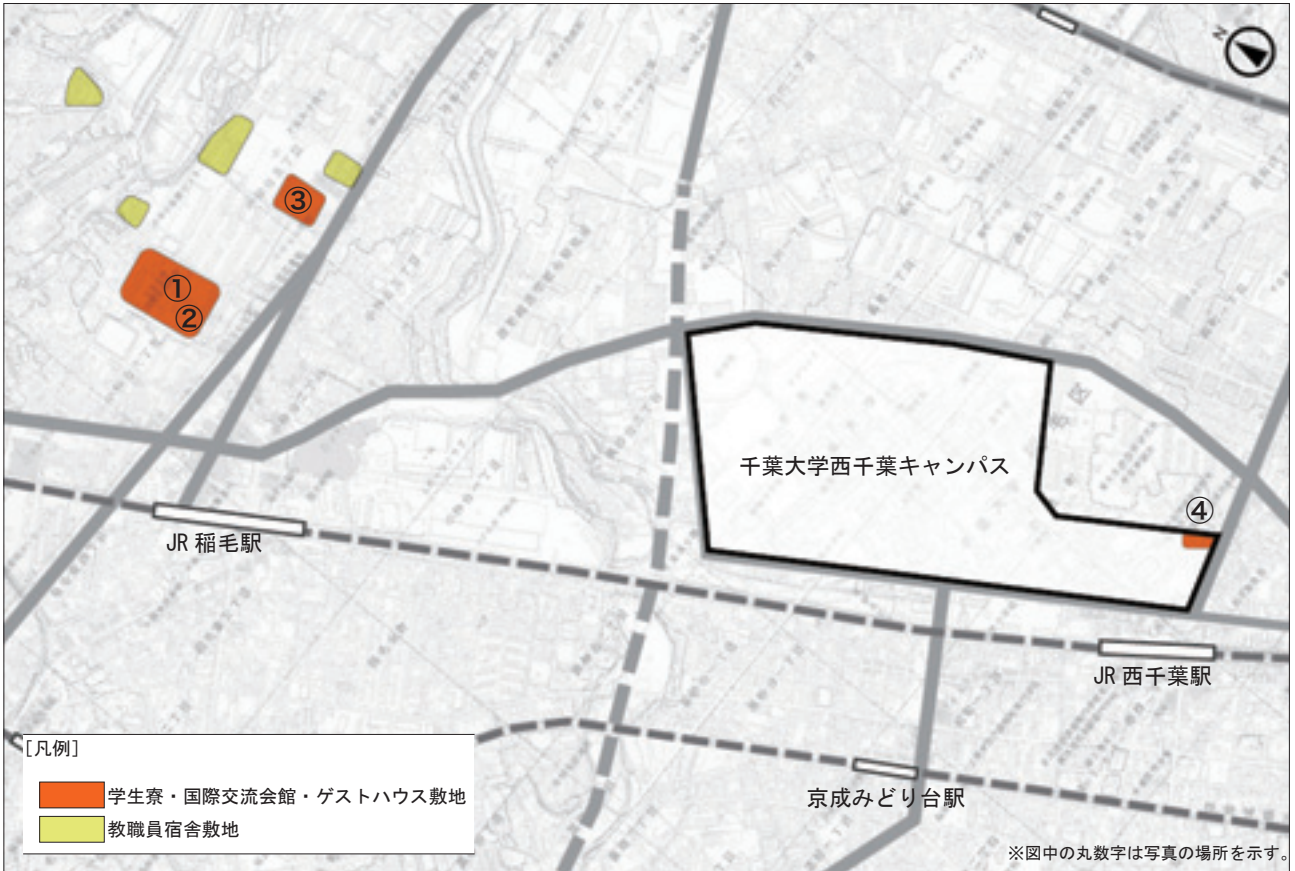


(図7) 専門法務研究科



(図8) 共通教育（普遍教育）

5-2 宿舎



宿舎配置図

千葉大学概要より
平成 23 年 5 月

■現状・課題

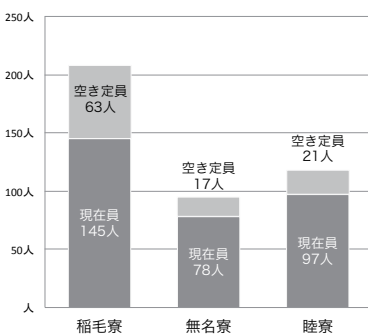
西千葉キャンパス近傍の学生寮は小仲台にあり、稲毛寮（定員 208 人）、無名寮（定員 95 人）、睦寮（定員 118 人）の 3カ所がある。利用率は 3つの寮を合わせて 76.0%、稲毛寮単独では 69.7%である。

国際交流会館は外国人研究者用 18 戸、外国人留学生 218 戸を保有している。

- ・稼働率が低い。
- ・研究者用ゲストハウスが少ない。
- ・キャンパスと学生宿舎の距離は 2km 程度である。

■検討の方向

- ・自己保有や民間施設借り上げなどを含めた住居系施設の整備のあり方。



(図) 学生寮入居者数



①無名寮



②稲毛寮



③睦寮



④ゲストハウス